
逝け!! ピンピンラジオ放送局

蒼乃翼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

逝け！！ ビンビンラジオ放送局

【ISBN】

N 8 4 3 2 D

【作者名】

蒼乃翼

【あらすじ】

どこまでも自由で無茶苦茶なラジオ番組が始まる。ブームに乗り
遅れた売れないと笑い芸人の遠野と毒舌オタク系のグラビアアイド
ルの近衛が巻き起こす、ラジオ業界の革命を見届けるのは、あなた
だ！

第一回 皿端せ、ラジオのヒーローをー 前編（前書き）

本作品は一人のキャラクターが、漫画ネタやオタクネタ、さらには時事ネタなど多様なネタを絡めながら、ぐだぐだと進行していく、ワントゥーマンのラジオ形式ギャグ小説です。

コアなネタも多数含みますので、?となることもありますが、何卒よろしく。

第一回 田舎せ、ラジオのヒーローを! 前編

（ON AIR）

近衛 「あなたの ^{ルーツ} を直撃する! ビンビンラジオ放送局!」

遠野 「ちょ、イキナリ何を血迷つた! 第一回から放送中止になるわ!」

オープニングBGM

近衛 「わーわー……よひやく始まりましたよ、遠野さん。私達の番組が」

遠野 「いや、こきなり番組打ち切りの危機だつたけどね……」

近衛 「だつて、作者…………もとい、プロデューサーがカンペ出し、これ言えって」

遠野 「さ、作者つて…………つーか、公共の電波で堂々とセクハラかよ!」

近衛 「遠野さん、サイマー」

遠野 「え、俺? 何で俺がセクハラしたみたいなノリなの?」

近衛 「だつて、プロデューサーが…………以下略」

遠野 「またカンペかよ! それに以下略つて、声に出して書つてどうすんだよ!?

近衛 「…………わー、氣を取り直して」

遠野 「…………さらつと無視か?」

近衛 「つこに第一回を迎えた、ビンビンラジオ放送局。どう

思いますか遠野さん?」

遠野 「ついにって表現は変だから……それにビンビンラジオっていつ番組名も変だから」

近衛 「遠野さん……何を想像してるんですか。これだから中学生

の童貞坊やは」

「いやいや！ 成人してるから！ 既に汚れた体ですか
遠野 ら！」

ま、遠野さんの男性遍歴は別にいいとして……」

遠野 「女性遍歴だから！ なんで経験の対象が男なんだよ！」

近衛 「私の個人的な趣味です」

遠野「腐女子かつ！」

「ハズレ、執事系

遠野「2年上の彼女。……………腐女子でした。つて、大ヒ

ツトか！！」

近衛
意外と詳しいですね。

「誰がセバスだつ！……でも一応、ありがとうと言つて

「おく

近衛 「でも、このエンターテイメント番組名、別に変な意味じゃないんですよ。」

「いや、明らかに変な意味だろ？……」

「十億の人の理想像になれる番組にしようと、一つの言葉の

両端をもじつて、スタッフさん達が徹夜で考えた名前がビンビンラジオだつたんですね

遠野 「え？ それ、ホントに？ そんな、ちゃんとした由来があつたの？」

近衛 「あつたんです。スタッフの願いと情熱が込められた名前だ
つたんです」

遠野「そうだったのか……俺はてっきり『ラジオびんびん物語』が元ネタなんだと」

近衛 「…………あ！ そういえば、私達の自己紹介がま
だでしたね」

「…………」
「四星か？」
「お、い、

四星なのか？

今のは全てが嘘か

「？」と、思ひ出でた。さうして、

近衛 「そ、そんな訳ないでしょ？ わあさあ、つまらない」と
言つてないで、リスナーの皆さんに自己紹介をしましよう

遠野 「……まあ、いいか。

……えつーと、この番組のパーソナリティをする事になつた事を早くも後悔し始めている、遠野公平です。

一応、お笑い芸人をやつてます」

近衛 「補足すると、最近の お笑いブーム に乗り遅れた上に自分が相方にまで見放された、落ち田気味の三流お笑い芸人です」

遠野 「…………他人に本氣で殺意が沸いたのは、相方以来だよ」

近衛 「なんでも、相方さんは書いた小説が大ヒットして、多額の印税が入つたことで、芸人の世界に見切りを付けたそうですが。

……どうなんですか？ その辺は

遠野 「……アイツは 芸人が小説を書くブーム にちゃっかりと乗つただけだよ！」

実力じゃなくて、まぐれだよ、まぐれ！」

近衛 「残された遠野さんは、どのブームにも乗れず、波に飲まれて海の藻屑もくすになつたと……可哀相

遠野 「…………ぐすつ」

近衛 「遠野さんが本氣で泣きそうになつてる間に私も自己紹介を。私は近衛茉莉花。じのえまりか ただ今、売り出し中の人気グラビアアイドルです！」

皆さん、これからヨロシク！」

遠野 「…………彼女の前では、毒舌芸人さえも裸足はだしで逃げ出す。

あまりに腹黒くて昼間は使えないから、深夜枠限定でテレビに出演可能な毒舌アイドルだ。別名・紫色の着物の人」

近衛 「そうそう、アイドル界の楽太郎とは私のことよ……って、ちょっと…」

遠野 「ノリツッコミかよ……だが番組が始まつてから、やつと一矢を報いる事が出来たぜ」

近衛 「対する遠野さんは、既に満身創痍つて感じですけど……大

丈夫?」「

遠野 「よ、止せ! 止めろ! 今まで散々、痛めつけておいて、弱った時に優しい言葉をかける」とで、俺の身も心も骨抜きにするつもりだろう!」「

近衛 「…………チッ。………… やだな~遠野さんったら。私、そんな事なんて考えてませんよ?」

遠野 「いや、聴こえてるから。舌打ちが集音マイクにバツチリ拾われてますから」

近衛 「さて、そろそろ真面目にやりますか」

遠野 「何を今更……」「

近衛 「この番組は、大手広告代理・電王堂の提供でお送りします「普通、最初にスポンサーの名前を言つんじやないか? それに電王堂……? 何かどこかで聞いたような気が?」

近衛 「素敵よね、高橋克典」

遠野 「特命係長の会社か! ! !」

近衛 「俺、参上! ! ! の決め台詞がたまらないよね

遠野 「それ違うから! ! ! 電王違いだから! ! !」

近衛 「答えは訊いてない」

遠野 「だから違うって! 明らかに放送の時間帯が違うから! アダルト向けとキッズ向けだから! ! !」

近衛 「ふん、アダルトとキッズの境界線なんて、最近では曖昧なモノなのよ?」

遠野 「なんで、そんなに偉そうなんだ………でも何故に?」

近衛 「だつて戦隊モノの敵女幹部に及川奈央を起用する時代よ?」

遠野 「……は、反論できない」

近衛 「今までだと、過去に女幹部をやつてた女優さんが、明日の仕事に困つて『そっちの世界』に踏み込んだじゅう、つてのは割と多かつたけど」

遠野 「…………確かに多いな」

近衛 「でも最初から『そっちの世界』にいる人を引っ張つてくる

のは、マズイでしょ？」

遠野 「……他には歌のお兄さんが男優に転向したりな」

近衛 「子供達の夢を破壊する行為よね。ヒーローショーで『中身』の人『を目撃するよりキツイわよ」

遠野 「そういうのを噛み締めて、子供達は大人の階段をのぼつて行くんじゃないのか？」

近衛 「さすがに幼稚園児とかに大人の階段をのぼらせる必要は無いと思うけど……」

遠野 「随分とマトモな意見だ……なんか、その手の話題に恨みでもあるのか？」

近衛 「……そういえば、怪人役で『アントキの猪木』が出演してたけど」

遠野 「話逸らされた……でも、アレって他の芸人でも一緒だよな？」

近衛 「私的には『春一番』がいいかも」

遠野 「その違いが分からぬし……」

近衛 「そんなんだから、未だに三流芸人なのよ」

遠野 「おい、コラ！」

近衛 「遠野さんに怪人役が回ってくる口は、果たしてあるのか！」

？ 「この番組がヒットすれば、そんな日も近いはず……！」

希望の未来へと思いを馳せながら……後半へと続きます

遠野 「何、その終わり方！？」…………それじゃ、CMです

第一回 田舎せ、ラジオのヒーローを！ 前編（後書き）

作者兼プロデューサーの蒼乃翼です。

完全なギャグ作品として書き始めた、この作品。
ラジオ番組、というスタイルをとっているので読者からの手紙が、
話の命になります。

こんなネタをやってほしい、こんな話題はどうだろう？

そんなリクエストを感想として送ってください。

それが彼らの番組に反映されます。

愛と笑いに溢れた、お手紙を待っています！！

ちなみに本編中で及川嬢をネタにしていますが、別に彼女が嫌いな
わけではなくて（といふか、お世話になつてゐるし）早朝の戦隊モノで
彼女を目撃した時の衝撃を伝えたかつただけなので、その辺は誤解
しないでください（笑）

あと、同時進行中の『神理の欠片』もヨロシク！

第一回 田舎せ、ラジオのヒーローを！ 後編（前書き）

第一話の後編なので、前編を読んだ後にじっくり覗ください。

第一回 田舎せ、ラジオのヒーローを！ 後編

CMソング

近衛「もぐもぐもぐ……もぐもぐもぐ」

遠野「美味しそうにハンバーガー食べる所、悪いんだけど……始まってるよ？」

近衛「え……えええ！？ わつ……もぐもぐもぐ……」*（ハハハハハハ）*

遠野「驚いても、とりあえず残さずに全部食つんだね……買って来たの俺なのにや。」

拳句、また舌打ちしたよね」

近衛「残すと、もつたひないオバケが出るんですよ？ 知らないんですか？」

遠野「話自体は知ってるけど……逆に十代の君が知ってる事に疑問を拭えないよ」

近衛「はい、始まりましたよ。『ビンラジ』後半戦が」

遠野「…………」

近衛「……はい、始まりましたよ。『ビンラジ』後半戦が」

遠野「…………」

近衛「なんか放送事故みたいになつてるじゃないですか！！ 何か話してくださいよ（小声）」

遠野「生放送だから、編集点を入れても意味ないよ」

近衛「誰が、私の行動を説明しろと言いましたか！」

遠野「じゃあ……ビンラジって何？ 何か、オリラジみたいな呼び方だけど」

近衛「え？ 巷ちまたでは、そう呼ばれているらしいですよ？」

遠野「嘘だから！ それ明らかに嘘だから！ 始まってから、まだ二日だよ！？（リアル）」

近衛「何を言つてるんですか？ これは今日から始まつた番組でし

よ？」

遠野「いや、その通りなんだけど……それを君に言われるのは何か納得できない」

近衛「遠野さんが納得できなくて……世界は変革していくんです」

遠野「何の話！？ これ、ただのラジオ番組だよ！？」

近衛「そう思つてるのは、実は遠野さんだけです」

遠野「…………え？」

近衛「この番組は、メディアを通して日本人、ひいては世界の愚民どもの心を掌握、誘導することで世界征服を間接的に遂行するという……」

遠野「何、そのメタ設定！？」

近衛「この放送が終わつた頃には、ペコポンは我々の支配下であります。ゲロゲロリ」

遠野「軍曹！？ いつの間にか近衛ちゃんがケロ軍曹に！？」

近衛「ついでに視聴者全員を私のファンにして、グラビア界の頂点に立つであります」

遠野「そっちが本当の目的だろ！？ 完全に公私混同だから！……」

近衛「ゲロゲロゲロゲロゲロ……」

遠野「おい、ゲロゲロ鳴いて誤魔化すなよ」

近衛「ゲロゲロゲロゲロゲロ……うつ」

遠野「つて、気持ち悪くなつたのか！ ゲロゲロやつて、気持ち悪くなつたのか！……」

近衛「……責任、取つてよね。パパ？」

遠野「ちょっと！？ 僕に心当たりは無いよ！？ つーか、悪阻じやないだろが！」

近衛「CM中に食べたハンバーガーが……」

遠野「やっぱりか！ 人の分まで食べるからだ！」

近衛「胃の中でシェイクに融合進化を」

遠野「何、その突然変異。……てか、その前にシェイク言つた、汚いから」

近衛「うわ、本格的に気持ち悪くなってきた……遠野さん、ひょいと背中擦つてよ~」

遠野「何故、そこで急に甘える?……まあ、仕方ないか……ほり

手の平から伝わる体温。女性の体特有の異常なまでの柔らかさ。
近衛の荒れる息遣いが、耳の中で反響する。必死で煩惱を振り払い
作業に集中する。

ふと、近衛と視線が合つた。潤んだ瞳を見つめた瞬間、俺は……

遠野「って、誰だ! 後ろで変なナレーション入れてる奴!… や
めろや、ボケ!…」

そういえば、聞いたことがある。男に甘やかされた女性ほど懇意の
症状は悪化するらしい。

ということは、やはり彼女の苦しみは俺にも責任が……

遠野「だから止めろって言つてんだろ!… あ、お前か!… ひょ
と、お前そこ動くな! む前から先に腹の中身を吐き出させてやる
!… 覚悟しとけ!」

「… 少々、お持ちください…」

近衛「アリガト、遠野さん。おかげで落ち着きました」

遠野「俺の方は、血管が切れそうだよ」

近衛「痔ですか?」

遠野「違うから!… ってか一応、グラビアアイドルなんだから痔と
か簡単に言っちゃダメ!…」

近衛「遠野さん、今時のグラビアアイドルは、もっと生々しく会話を
を平氣でしますよ」

遠野「そういうことも言つなよ!… フアンの夢をあつさつと壊す

なよ！」「

近衛「……もう、遠野さんつば痔意識過剰なんだから」

遠野「いや、話の流れがオカシイから……って、漢字も違うし……」

近衛「そうですか？……おや、またカンペのようですよ？」

『スタッフの一人が重傷で、早く病院に連れて行きたいので、今日は終わりで……』

遠野「怪我人が出たのか？ 大変だな、おい」

近衛「遠野さんがやつたくせに……」

遠野「……「ホン。えーと、ビンラジではリストナーからの応援のお手紙を募集しております」

近衛「宛先は、ビンラジ小説の感想まで。皆さんのお愛あるメッセージを待つてます！」

遠野「パーソナリティは、お笑い芸人・遠野公平と」

近衛「グラビアアイドル・近衛茉莉奈がお送りしました！」

二人「「それでは、次回のビンラジをお会いしましょう！……」

第一回 田端せ、ラジオのヒーローを！ 後編（後書き）

どうでもいいけど、ケ 口軍曹つて隠せてないよね？
ある意味、超・劇場版3放映記念？

（ON AIR）

近衛「良い子のみんな？」ビンラジが、始まるよ～！」

遠野「……何だよ、」のZHKの子供番組みたいなノリは

オープニングBGM

近衛「さて、一回目の放送を迎えるました。ビンビンラジオ放送局、略して、ビンラジン」

遠野「盛大な言い間違いだよ！ ボケにしたって、危険だから！ 色んな方面から叱られるぞ！」

近衛「大丈夫、叱られるのは基本的にプロデューサーだから」遠野「ひどっ！ ……そんなんだと彼の髪の毛、また白髪が増えるぞ。ストレスで」

近衛「まだ二十歳になつたばかりなのに。哀れな作者……もとい、プロデューサー」

遠野「作者つて言つた。つて、プロデューサー……何時の間にか茶髪に染めてるし……」

近衛「大学入学を控えて、ビジュアル面の改善を図つたみたいね」

遠野「何も公共の電波で、そんな事をバラさんでも……」

近衛「……今更、焦つても手遅れなのにね」

遠野「……一応、俺らの造物主……といふか上司に対して、その毒舌はどうなんだろう」

近衛「いや……ぶっちゃけ、そういう設定だし」

遠野「ぶっちゃけ過ぎだ！！ 世界観とか完全に無視か！！」

近衛「それが私、近衛ちゃんの生き様」

遠野「意味不明だから……」

近衛「とにかくで大学生にならうといつ青少年が、白髪隠しの為に染髪するつて、どうなの？」

遠野「それを言つなら、大学入学の前日にネットで小説書いてるのはいいのか？」

近衛「あ、カンペが出ましたよ？……どれどれ」

『「めんなさい、その辺で勘弁してください。今度から、もつと早いペースで書きますから』

近衛「どうやら、数週間も放置されていた私達の怒りを理解して貰えたようですよ、遠野さん」

遠野「俺は別に怒つてないけど……それに別口が忙しいんだろ？」

近衛「いや、別口の更新も滞つてるらしいんですよ。妹が言つてました」

遠野「何だよ、妹つて！？ そんなの初耳だぞ！？」

近衛「別口の方で活躍（予定）している妹が、自分の出番がなかなか来ないって……」

遠野「そんな隠し設定が……！ サスガに、それには少し驚いたな」
近衛「この番組の放送が始まつてから、発生した設定らしいんだけどね」

遠野「何だよ、その希薄な姉妹の関係性は！？」

近衛「作品をリンクさせる事で、読者の相互増加を狙おうとしてるみたいね」

遠野「そんな、伊坂幸太郎じゃないんだから……って、俺らの作者も仙台人だ！？」

近衛「なるほど……同郷の小説家に倣つて、自分の作品を高める一助にしよう」と

遠野「……おい、プロデューサーが軽く泣き始めたぞ……」

近衛「自分の考えが見透かされたぐらいで、うろたえるなんて……

小さい男」

遠野「俺は、お前のブラックホール並に腹黒くて、見透かせそうにない性格が怖くて仕方がない」

近衛「何よ、このHONJYORスマイルを前にして、よくそんな台詞が吐けるわね。見よ、この輝き…」

キラキラキラキラキラキラ…

遠野「いや、そんな効果音付きて輝かんでも……」

近衛「ふつふつふ……この程度、私の持つ48の必殺技（主にファンに対して）の中では、序の口よ」

遠野「ファンを必殺してどうする気だよ……ってか、48もあるのか必殺技が」

近衛「間接技もあります」

遠野「キン肉マンか…！」

近衛「祝、29周年！　という事で」

遠野「どうして急に…」

近衛「実は…」

遠野「じ、実は…？」

近衛「お昼が牛丼だったんです」

遠野「ええ？　俺は普通のロケ弁だったぞ？」

近衛「ロケ弁とは別にスタッフさんに食べたい、って言つたら差し入れてくれたんです」

遠野「おい、スタッフ～？　スタッフ～？」

近衛「うわあ……他の芸人さんのネタを使うなんて、遠野さんプライドとかないんですか？」

遠野「ふん、そんなモン山椒代わりに味噌汁の風味付けに使ってやつたわ！」

近衛「いや、プライドは風味付けにはならないでしょ……そもそも活字で表現するには難しいネタですし……」

遠野「いいんだよ、分からなくても。あと、プライドは少し苦くて

鼻にツンと来る風味がある

近衛「止めてよ、そういう切なくなる発言……」

遠野「くやしいです！」

近衛「……この流れだと、それもパクリに聴こえる」

遠野「祝、スパロボＺ出演！ という事で」

近衛「真似された！ って、色々と間違ってるよ！」

コンビ名と作品名が被ってるだけだよ…」

遠野「ザブングルネタが分かるって……何歳なんだ、お前は……近衛茉莉花、恐ろしい子」

近衛「ふふふ……女性に歳を訊くなんて、命が惜しくないのかしら？」

遠野「怖っ、めちゃくちゃ怖い！ なんで突然、キャラが変わった！？ ってか俺より明らかに年下だろ！ なあ、そうだと黙つてくれ！」

近衛「…………さて、今日の後半戦からはリスナーからのお便りやメールも紹介していく予定です」

遠野「何だよ、今の間は……まあ、いいか。それで？ どんな感じのを紹介するんだ？」

近衛「主に『近衛ちゃんカワいい！』とか『近衛ちゃん結婚して！』などのパーソナリティ関連のメールを……」

遠野「偏つてる！ 選択基準が偏つてる！ そつぞつラジオを私物化する気か！」

近衛「…………ではCMです」

作者『せめて、否定して欲しかった！』

中CM

作者『お疲れ様です。お一人とも』

遠野「そうぞな」

作者『そらなん

近衛「何せ、前半の収録だけで四か月だもん」

遠野　ほとんど休みにはなしだったな。

近衛「反對」は第一、反對

作者『だつて、大学生活に慣れるのに大変で……』

作者……その通りです。スマートセン

作者『はい、肝に銘じます』

そんな訳で、どうも蒼乃翼です。いや、本当に「無沙汰してま

確かに、一コ一コ動画に嵌りました。でも執筆活動をしてない訳でな
く。

いや、私も男です。言い訳はしません！ ただ一回……「これからは頑張ります！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8432d/>

逝け!! ビンビンラジオ放送局

2010年10月9日01時09分発行